

関節リウマチの治療

関節が腫れ、放っておくと変形してしまふ「関節リウマチ」。難病としても有名ですが、近年新薬の登場など治療法が進化しているといえます。具体的にどのような治療が行われているのか、専門のクリニックを取材しました。

検査&治療にまつわるQ&A

Q どのような症状のときに
関節リウマチを疑えば
良いのでしょうか？

関節リウマチの早期症状は、多岐にわたります。特徴的なものは、手足に起こる朝のこわばり、関節の腫れ・痛みが続くことが挙げられます。その他、貧血症状、なんとなく気分が優れない、食欲低下、目の渇き、微熱が続くなどの症状もあります。このような症状の場合、どこの科にかかったらいいのか判断が難しく、また、30〜50歳の社会的・家庭的に重要な役割を担う女性に多い症状のため、受診が遅れてしまうようです。困った症状があれば、早めに受診し、相談しましょう。

Q 関節リウマチ治療について
最近の事情を教えてください

メトトレキサート薬剤と生物学的製剤の登場により、寛解(痛くない・腫れない・壊さ

れない状態)へと病状が落ち着く見込みが高まり、関節破壊などを阻止できるケースも増えました。このため、従来は「痛みやうずきの軽減と日常生活動作の改善」だった治療目標が「寛解の導入と維持」へと変わり、中にはすべての薬剤の使用を中止しても良い状態を維持できる、いわゆる「治癒」めざせるようになりました。

Q どのような種類の薬が
ありますか？

基本的には厚生労働省が第一選択薬(治療で最初に使用するべき薬)として認めている「メトトレキサート」という薬を使用して、治療を進めていきます。これは関節における免疫の異常な働きを抑制する薬。また症状の程度によっては、より症状の改善が見込める「生物学的製剤」の使用も検討します。その他、必要に応じて、抗炎症剤やステロイド剤を使用することもあります。

ドクターからのアドバイス

治療で大切なのは、患者さんと医師と一緒に治療法を検討し、目標を設定することです。最近ではより症状の改善が見込める薬も登場して「寛解」の実現もめざせるようになりました。患者さん一人ひとりの症状の進行具合や、妊娠を希望している・授乳中であるなどの状況に合わせて適切な治療法が異なるので、気になる方はお気軽にご相談ください。

読者レポーター
鈴木花さん
(20代/会社員)



昔の治療とどう違うのか
具体的に知りたいです

関節リウマチは女性に多い病気だということ、以前から関心がありました。また、一度かかると治らない怖い病気だというイメージも持っていました。最近では、新薬が出たり早期診断が可能になったりしたことで、寛解や治癒をめざせるまでになったと聞きました。具体的にどのような治療を行うのか学びたいです。

START!

実際の流れを紹介

STEP 1



病状を的確に把握するための
問診・検査からスタート

関節リウマチ以外の別の病気が隠れていないかを調べるための除外診断を受ける。診断は、血液検査だけではなく、問診や触診や聴診などの診察、レントゲン検査、関節エコー検査の結果を総合的に分析して進められる。

STEP 3



事前チェックで安全性を確かめて
生物学的製剤治療を実施

生物学的製剤は現在8種類あり、関節の炎症を鎮めたり、炎症の原因を抑えたりする働きがあるという。投与方法は点滴と皮下注射。安全面に留意してツベルクリン反応検査やB型肝炎チェックなどを事前に行なった上で使用を判断する。

STEP 2



患者一人ひとりの
症状と目標に合わせた
治療法の提案と実践

基本的に治療には、第一選択薬であるメトトレキサートを使用。すでに関節破壊があるなど機能障害が進行している場合は、より症状の改善が見込める生物学的製剤を使用するが、リスクと効果について本人だけでなく家族にも説明がある。

STEP 4



患者の体調に合わせて
点滴や皮下注射を実施

点滴は30分〜2時間かけて、患者がくつろいだ状態で行う。皮下注射薬剤は、自宅で1〜2週間ごとに行えるものや、クリニックで4週間ごとに行うものがあり、前者は自宅でも患者自身が皮下注射できるよう安全面を優先して指導している。

STEP 5



定期的な診療で
治療効果を継続して確認

メトトレキサートや生物学的製剤などの優れた薬がある現在、大切なことは治療効果判定をしっかり行っていくことだという。客観的に病状進行度を見極めて、医師の立てた寛解をめざした方針に沿って治療を継続していく。

レポートを終えて……



関節リウマチの治療法に関する難しい内容を、わかりやすく教えていただき、しっかり理解できました。病気への正しい知識と理解がとても大切だと改めて感じています。早期発見や新薬で、関節リウマチの治療が可能であるとわかったので、私自身はもちろん、家族や友人にも一度、診察を受けてみるよう勧めたいです。

湯川リウマチ内科クリニック

2015年、武蔵境駅より徒歩5分の地に開業。リウマチに悩む近隣住民はもちろん、中央線沿線や近郊からも多くの患者が訪れる。院長の湯川宗之助先生が掲げるモットーは、「心を持った人間同士として患者に接し、科学的根拠に基づいた診断と治療を行う」。患者が地域のクリニックでも先端の治療を受けられる環境をめざして、新薬の導入や診療体制の整備も進めている。

武蔵野市境南町3-14-6 山桃ビル3F
☎0422-31-1155



湯川 宗之助 院長
LINK P000、000